

政策	21 暮らしやすい都市の創出						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	有	成果向上の余地	有	
対象	市民						
基本施策目的	定住の場や就業の場としての利便性が確保された計画的な土地利用や道路網整備の推進を図る。 本市を特徴づける資源を活かした魅力的な景観や街並みの形成を図る。 誰もが快適に暮らし続けることのできる良質な住環境を確保する。 日常生活の足となる身近な公共交通サービスの充実を図る。						
成果指標	道路の整備・保全に対する市民満足度 美しい景観形成に対する市民満足度 公共交通の充実に対する市民満足度 専用住宅の年間新築戸数（指標単位：戸）						
目標達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [%]	予定					60.00
		実績					
	成果指標2 [%]	予定					65.00
		実績					
	成果指標3 [%]	予定					60.00
		実績					
	成果指標4 []	予定	510.00	515.00	520.00	525.00	530.00
実績		778.00					
トータルコスト (千円)	予定	1,330,515	0	0	0	0	
	実績	1,514,414	0	0	0	0	
内部評価	貢献度	基本方針の「心地よく暮らせるまちづくり」を進める上で、本基本施策の指標である道路、景観、公共交通の満足度や住宅の新築戸数は重要な要素となる。					
	達成状況	景観形成については、達成度が非常に高く、その他の単位施策についても、概ね目標通りのペースで進捗している。					
	課題	ふれあいバスの年間利用者数について、目標値を達成するために広報誌等でのPRや説明会等を開催し、周知徹底を図る必要がある。					
	取組方針	ふれあいバスや蔵タクについては、地域説明会等の開催に加え、更なる利用促進策を検討し利用者を増加させる。					
外部評価	<p>本施策の成果指標である市民満足度については、平成28年度実施の市民アンケートの結果を見なければ分からないが、下位の単位施策の達成度を見ると概ね順調に推移していると思われる。</p> <p>しかしふれあいバスの利用状況等を見ると、公共交通サービスにはまだまだ改善の余地がある。コース等を含め路線の見直しが必要である。</p> <p>また新築住宅においても年間戸数は増えているが、その反面空き家も増えてきている。新たな人口の流入を促すためにも「あったか住まいるバンク事業」の拡充が必要である。</p> <p>各種いろいろな施策を実施しているが、制度の概要が市民に伝わっていないものが多く見受けられる。周知方法の検討が必要である。</p>						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	2101	都市基盤の充実				884,164	100
	2102	景観形成の充実				51,237	100
	2103	定住環境の整備推進				303,344	99
	2104	公共交通体系の充実				275,669	98